

第6回バイオマス活用事業実現可能性検討委員会  
議事要旨

■年月日：平成30年12月18日(火) 15:00～16:40

■場 所：大熊町役場 いわき出張所 (2階多目的ホール)

■出席者：【検討委員】(敬称略)

双葉地方広域市町村圏組合 事務局長 秋元 正國

大熊町役場 副町長 吉田 淳

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 山岡 賢

福島大学 教授 新田 洋司

福島大学 特任准教授 石井 秀樹

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野中 章久

大熊町農業委員会 会長 根本 友子

福島県相双農林事務所 双葉農業普及所 所長 佐久間 秀明

大熊町役場 産業建設課長 柳田 淳、以上9名

【事務局】

大熊町役場 産業建設課 課長補佐 澤内 和彦

大熊町役場 産業建設課 主任主査 東 裕行

大熊町役場 復興事業課 森 俊貴

(株)アグリパートナーズ 小野寺 健一、以上4名、計13名

■欠席者：なし

■資 料：資料1 第5回検討委員会 意見まとめ

資料2 バイオマス活用事業 検討まとめ(案)

資料3 バイオマス事業スケジュール(案)

資料4 発展的取り組みについて

■資料説明及び意見交換

【資料1 第5回検討委員会 意見まとめ】(事務局)

① 総括

② メタン発酵施設について

【資料2 バイオマス活用事業 検討まとめ(案)】(事務局)

① 原点としての農地保全(現状と課題、目指す姿)

② エネルギー作物栽培による農地保全(対象、品目栽培体系、担い手、農地)

③ (参考) 農地保全手法に関するアンケート(概要、補足)

④ (参考) アンケート質問内容(問1から問6)

- ⑤ 大熊町におけるメタン発酵施設について（原料、発酵方式、発酵残渣、施設規模）
- ⑥ 事業の実現可能性について（現状、バイオマス活用事業、今後の課題、結論）
- ⑦ 大熊方式によるバイオマス活用事業（概要）

【資料3 バイオマス事業スケジュール（案）】（事務局）

- ① 期間（平成30年度から平成35年度）
- ② 項目（全体、エネルギー作物栽培、メタン発酵施設）

【資料4 発展的取り組みについて】（事務局）

- ① 発展的取り組みについて①（情報発信、付帯施設）
- ② 発展的取り組みについて②（地域資源利活用、広域連携）
- ③ バイオマス活用事業の将来像（案）

■検討内容

- ・バイオマス活用事業 検討とりまとめ
  - 栽培面積が150ha前後で損益分岐点となり、赤字にならない規模である。
  - イニシャルコストは補助金を充てた場合で計算している。
  - ガスは発電してFITで売却し、地権者に関する還元は固定資産税+ $\alpha$ くらいが現実的と考えられる。
  - メタン発酵施設を周年で運転するにはかなり工夫が必要である。
  - 収穫時期は繁忙期となり人手が必要となるが、それ以外は閑散期になるので、経済性と労働集約がポイントとなる。
  - 除染後の農地は震災前の堆肥等が入った肥沃な土地ではないため、化学肥料を使用する事になると思うが、その前の段階で地力増進作物を栽培する方法もある。
- ・今後の展開について
  - 地域資源を活用したエネルギーやバイオマス等に関するプロジェクト学習も良い。
  - 風評被害を恐れずに原発事故の被害を発信し、事故の本質を理解していただく。
  - 外部被爆を抑えながら、農地保全に取り組む事も学習していただく価値がある
  - バイオマス事業による循環型農業にスマート農業も加味すれば更なるモデルになる。
  - トリジェネレーションによる、イチゴ養液栽培施設での熱やCO<sub>2</sub>利用も良い。
  - クリムソクローバーのような景観作物にもなる緑肥作物を栽培し、地力回復と観光の組み合わせを考えるのも良い。
- ・その他（総括的内容）
  - 景観作物、エネルギー作物のオーナー制度、コンセッション方式も良い。
  - フォローアップとして、定期的に事業の進捗状況を公開する機会を設けるのが良い。

以上